



10月20日、河野大臣は、デンマークで開催された「P4Gコペンハーゲンサミット2018」に出席。国際社会に対して、SDGsやそのための資金に関する日本の取組を発信するとともに、主催国デンマークとの間で、SDGsを推進すべくP4Gとの連携強化を確認することができ、来年のTICAD7、G20サミット、SDGs首脳級フォローアップ会合に向け、SDGs達成に向けた国際社会の機運を醸成することができた。

◆河野大臣によるスピーチ概要

- 日本は、「人間の安全保障」の考え方にに基づき、SDGs採択以前から「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向け取り組んできた実績を強調。
- 2030年までのSDGs達成に必要な資金ギャップを埋めるため、国際連帯税を含む革新的資金調達のあるり方を真剣に検討する必要がある旨発信。
- 来年のSDGs首脳級フォローアップ会合に向け、SDGs実現に向けた具体的取組を加速化していく決意を改めて表明。



◆コペンハーゲン・コミットメントへの署名

- 同サミット後、SDGs推進の加速化や、そのための①国・地方、②企業・投資家等、③市民社会、④国際機関・学会等との官民連携の強化を盛り込んだコペンハーゲン・コミットメントが発出され、河野大臣も署名。



【参考】P4G((Partnering for Green Growth and the Global Goals 2030))サミット

環境に優しい経済成長とSDGs実現のため、官民連携強化を目的として2018年に設立されたネットワーク。今回のサミットには、P4Gメンバー国であるデンマーク、オランダ、ベトナム、韓国、バングラデシュ、エチオピアの他、世界経済フォーラム(WEF)等経済界の要人が出席。